

令和元年6月13日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K01858

研究課題名(和文)近代アジアと漆貿易 - 日本、中国、仏印、台湾、朝鮮における地域間分業の展開

研究課題名(英文) Modern Asia and the Lacquer Trade: the Regional Development of the Division of Labor in Japan, China, French Indochina, Taiwan, and Korea

研究代表者

湯山 英子 (YUYAMA, EIKO)

北海道大学・経済学研究院・研究員

研究者番号：70644748

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の主題は、近代アジアの地域間分業において、漆貿易を通してその一側面を提示することが目的である。貿易の担い手となる漆貿易商と漆生産者からアプローチするために、現地調査(日本：和歌山、鳥取、大阪、海外：台湾、ベトナム、韓国)を実施した。現地での生産者へのインタビュー調査では、文献資料では得られない情報を入手することができた。一部成果は、学会での口頭発表(2015年)、ベトナムと台湾での国際シンポジウムで口頭発表するとともに(2015年、2017年)、その成果は論集としてまとめられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

漆は伝統工芸である漆器製造に使われたという認識が強いが、第一次世界大戦以降の日本の工業化に伴って工業用塗料として使われ、のちには軍需用にまで及んでいた。残念ながら戦後は西洋塗料の台頭や合成樹脂の登場で、伝統工芸での漆器に限られるようになった。しかし、アジア各地では漆工芸が根強く伝承されている。現在もアジア特有の商品・産品であり、原料である漆をアジア域内貿易との関係で論じる意味がある。また、漆工芸の歴史においては、通史的であり、日本が原料を輸入に依存していたにも関わらず、原料確保に関する検討はごく限られ、研究の空白部分であり、この部分を少しでも埋めることができたことは大きな成果である。

研究成果の概要(英文)：The goal of research is to present the aspects of the lacquer trade of the regional development of the division of labor in Modern Asia. From the perspective of the merchants of the lacquer trade and the lacquer producers, I conducted the local surveys both inside of Japan (Wakayama, Tottori, and Osaka) and outside of Japan (Taiwan, Vietnam, and Korea). The information unavailable from the reference data has been obtained from the interviews with the local lacquer producers. I presented some findings at the Japanese academic society in 2015 and the international symposiums in Vietnam and Taiwan in 2015 and 2017, respectively. The resultant findings have been summarized in the collection of the essays.

研究分野：日越経済史

キーワード：アジア間貿易 漆貿易 安南漆 琉球漆(沖縄) 仏領インドシナ(仏印) 流通ネットワーク 台湾史 朝鮮史

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

各分野からアジア間貿易と原料獲得の構図およびそれに伴う人的移動・役割を解明する努力がなされてはいるものの、漆貿易・漆生産過程については、その全体像が解明されていない。特に、経済史研究において林業分野の研究蓄積は限られており、本研究で対象とする原料としての漆(漆樹・漆液)に関連した分析は、1950年代以降は皆無である。戦前期植民地の林産資源は、木材(建築、鉄道枕木)やパルプ原料のみならず、漆液も含め多岐に渡っていた。

そして、日本における漆は、主に伝統工芸である漆器製造だけではなく、自動車や自動車の塗料、紡績木管の錆止めなど工業用塗料として、のちには砲弾の錆止めといった軍需用にまで及んでいた。しかも原料は、海外からの輸入に依存していたため、漆の確保は日本にとって切実な問題だったのである。その最大の輸入先が、中国(漢口)、仏領インドシナ(北部・ハノイ)であり、輸入先の確保と同時に「国産化」に向けた施策が日本の植民地である朝鮮や台湾にも及んでいた。こうした日本の勢力圏での展開過程において漆の場合は、中小業者が担っており、資本力が弱小ゆえ現地で産官学がどう関わったのかが重要になってくる。

### 2. 研究の目的

近代における漆貿易および生産過程のプロセスを、その担い手を通して解明し、漆のアジア地域間分業がどのように形成されていたのかを示すことが目的である。前述したように、ここで扱う漆は、第一次世界大戦以降の日本の工業化の進展に伴い、工業用塗料として注目されるようになり、調査・研究が進められたアジア特有の林産物である。

本研究の対象年代は、1910年代～1945年まで。1945年以降、によって戦後への連続性の議論にも繋げる。対象地域は、日本および沖縄、仏領インドシナ(仏印)、台湾、韓国、中国、これら各地域での漆栽培に至るまでの社会的背景と栽培を担った産・官・学、それぞれの役割および関連性について検討する。従来の研究では見過ごされていた漆の分野で、アジア地域間分業の新たな一側面を示すことを目指す。

### 3. 研究の方法

国内外の関係者と連携しつつ、国内における資料調査、関係者へのインタビュー調査、海外の漆産地調査と資料収集、関係者へのインタビュー調査、分析および検討、成果を学会などで中間発表、成果を一般にも広く報告する。

### 4. 研究成果

次の～が主な研究成果である。

国内各地で未開拓資料の発掘はもちろん、関係者へのヒアリングによって個人所有の資料発掘に結びついた。特に、和歌山県海南市の田島漆店の海外展開を裏付ける資料および古写真資料を入手できた。漆業界への関係者インタビューによって、これまでの調査内容に新たな知見を得られた(大阪市:漆精製会社、漆貿易会社)。

台湾、沖縄での産地調査によって、沖縄と日本、そして台湾との関係性を確認することができた。台湾ではかつての漆樹栽培地を見学し、日本植民地時代の漆精製機械を確認した。

ベトナムでは、戦前からの産地であるフーター省を訪問し、漆樹栽培と採取状況を見学するとともに、生産者へインタビュー調査を行った。また、地域内での収穫後、その流通の複雑さを確認した。

韓国では、漆工芸家と漆関係者へのインタビュー調査によって、かつての漆樹栽培地の確認と、戦後の漆工芸の変遷を知ることができた。

上記との成果は、ベトナムでの国際シンポジウムで発表した。また、著書として論考を発表した。また、～については、発表準備を進めているところである。

以上、本研究を通じて整理すると、次のような新たな展開があった。

第1に、1950年代以降皆無であった、原料に着目した漆研究に、新たな知見を加えることができた。

第2に、ベトナムでは現在も漆産地が戦前から続いていることを確認し、流通に中国人が関与していることまでは聞き取りで明らかになった。台湾では、戦前から戦後に産地・技術・機械などが引き継がれたものの、現在では使われず輸入漆に依存していることを確認した。戦後への連続、断絶の議論に検討を加えることが可能になった。

第3に、沖縄においては、漆工芸の歴史には地域での研究蓄積があるものの、原料確保にどう対処したのかは未開拓の部分であったことを確認した。日本および植民地台湾と、沖縄との関係において、原料を巡る流通網がどう形成されてきたのか、ごく一部であるが明らかになった。

第4に、新たな資料の発掘によって、関連する研究(基盤C「第二次世界大戦後ベトナムからの「引揚げ」と「残留」」2018年～2020年(課題番号18K00983代表・湯山英子)へ繋げることができた。この研究では、戦時期の再検討も射程にあり、漆商の「引揚げ」と戦後への連続性にも言及できる。また、本研究と併行して、基盤研究A「第二次世界大戦期日本・仏印・ベトナム関係研究の集大成と新たな地平」2013～2017年(課題番号25243007:代表・白石昌也)に参加することで、新たな資料の発掘や情報の共有が可能になるなど、相互補完的に調査を進めることができた。

最後に反省点として、当初予定していた中国での現地調査ができなかったことである。戦前からの漆集積地であった漢口に関する資料収集はしたものの、現地調査の機会を逃してしまった。また、韓国についても、インタビュー調査で得られた情報を裏付ける資料の確認が済んでおらず、これらについては、引き続き進めていきたい。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計7件)

- 1、湯山英子「日中戦争下の仏領インドシナと中国 外務書記生のアジア体験から」『文明21』第42号、1~20頁、2019年3月。
- 2、湯山英子「東亜同文書院生が見た日中戦争初期の仏領インドシナ」『同文書院記念報』第27号、33~43頁、2019年3月。
- 3、湯山英子「台湾の「南方協力」と仏領インドシナ - 黄麻栽培を中心に」『アジア太平洋討究(白石昌也教授退職記念号)』第31号、153-170頁、2018年3月。
- 4、湯山英子「『職員録』から見る仏領インドシナ三井物産の動向」『三井文庫史料：私の一点』(三井文庫論叢50号別冊)三井文庫、264-265頁、2017年5月。
- 5、湯山英子<研究ノート>「九州大学記録資料館所蔵『戦時資源資料』の興亜院と仏印資源調査関係資料について：一地質学者の業績から考察」『エネルギー史研究』第32号、147頁~162頁、2017年3月。
- 6、Eiko Yuyama “Japanese Merchants’ Activities in French Indochina: A Study of the Lacquer Trade”. Masaya Shiraishi, Nguyen Van Khanh & Bruce M. Lockhart eds., Vietnam-Indochina-Japan Relations during the Second World War: Documents and Interpretations, Waseda University Institute of Asia-Pacific Studies, Tokyo, pp.197-208, 2017.2.
- 7、湯山英子「台湾の仏領インドシナ調査と事業経営 南亜会社と日仏製糖会社を中心に」『臺灣學研究』(國立臺灣圖書館)第20期、1頁~29頁、2016年12月。

〔学会発表〕(計6件)

- 1、湯山英子「東亜同文書院生の仏領インドシナ調査旅行 日中戦争期の在留日本人との接触」東南アジア学会中部例会&愛知大学東亜同文書院大学記念センター講演会(招待講演者)至愛知大学豊橋キャンパス、2018年6月30日。
- 2、湯山英子「台湾の仏領印度支那調査と企業進出」シンポジウム「近代臺灣與東南亞：臺灣學研究中心10周年國際學術研討會」至台北市(招待発表)2017年11月25日。
- 3、湯山英子「戦時期大丸百貨店[株大丸]の東南アジア展開 - ハノイを事例に」北海道大学大学院経済学研究院 地域経済経営ネットワーク研究センター 2017年度第1回研究会(通算第51回) 至北海道大学、2017年5月12日。
- 4、湯山英子「戦時期台湾における仏印農林資源調査」社会経済史学会北海道部会、至北海道大学、2015年5月13日。
- 5、Eiko Yuyama “Japanese Merchants’ Activities in French Indochina: A Study of the Lacquer Trade”, Vietnam - Japan Relations during the World War II: Documents and Interpretations. Hanoi University of Social Science and Humanity, Vietnam (ハノイ社会人文科学大学) 2015年9月18日~19日。
- 6、湯山英子「台湾の南方「協力」と仏領インドシナ - 資源調査と人員派遣を中心に」社会経済史学会第84回全国大会、至早稲田大学、2015年5月31日。

〔図書〕(計3件)

- 1、白木沢旭児編著：共著者：張曉紅、崔誠姫、内藤隆夫、湯山英子他9名『北東アジアにおける帝国と地域社会』北海道大学出版会、500頁、2017年。
- 2、Masaya Shiraishi, Nguyen Van Khanh ed. (共著)白石昌也、菊池陽子、笹川秀夫、立川京一、古田元夫、難波ちづる、村嶋英治、湯山英子、岩月純一他21名執筆 Vietnam-Indochina-Japan Relations during the Second World War: Documents and Interpretations, Waseda University Institute of Asia-Pacific Studies (WIAPS: 早稲田大学アジア太平洋研究センター), Tokyo, 333pp, 2017.
- 3、Shiraishi Masaya ed. (白石昌也編) 白石昌也、古田元夫、早瀬晋三、菊池陽子、笹川秀夫、立川京一、難波ちづる、湯山英子 Indochina, Thailand, Japan and France during World War : Overview of the Existing Literature and Related Documents for the Future Development of Researches, Waseda University Institute of Asia-Pacific Studies [邦題：第二次世界大戦期のインドシナ・タイ、そして日本・フランスに関する研究蓄積と一次資料の概観：研究のさらなる進展を目指して](WIAPS: 早稲田大学アジア太平洋研究センター), 434 pp. Tokyo, 2015.

〔産業財産権〕

なし

〔その他〕

〔一般向け発表〕(計3件)

- 1、湯山英子「戦後ベトナムからの「引揚げ」」ベトナム勉強会、東京外国語大学本郷サテライト、2019年1月12日。
- 2、湯山英子「ベトナムと台湾における安南漆」網走漆の会例会(網走市)、2018年8月4日。
- 3、湯山英子「ベトナムにおける日本企業の変遷」北海商科大学公開講座、平成29年度前期第4回「東アジアのダイナミズムを読む」、至北海商科大学、2017年7月8日。【公開講座】